

わ や 便 り

〔和家たより〕 第7号

2022年9月20日発行
尾鷲市大字向井151番地1
特定非営利活動法人
まぐのりあ
電話(0597)37-4030
FAX(0597)37-4031

本人の意思に寄り添う！



しんごさんには車が必要。りかさんも一緒に。本人も楽し、一人の職員で出来るから効率的。



私は季節を感じて歩きたい！健康にもいい！



大切なのは、本人の意思の尊重です。『自己決定の原則』と、言います。



本人にとっての意味を知ろうとし、共感し、こんな“無駄”を大切にしていける気持ちを持ち続けるのが、暮らしを支える専門職に求められる大切なものではないかと思うのです。

ケアの専門性を意識するあまり、つきあいが「方法」になってしまったら、本末転倒だ。

「素人」に学ぶ専門性というものこそ、ここで求められているのではないだろうか。

「嘸みきれない想い」 鷺田清一著 角川学芸出版より

まぶしい実践

NPO 法人まぐのりあ 監事 柳誠四郎

たまに、和家を訪ねてりかさんと顔を合わせると、両手を前後に交互に振り「散歩に行こう」とアピールしてきます。和家に来る前には訪問介護の支援を受けて、家の近くを散歩するのを楽しんできた人です。

和家の二人の利用者さんは、和家に住んで、週5日は、歩いて20分ぐらいのところにある、通所の生活介護施設に通っています。

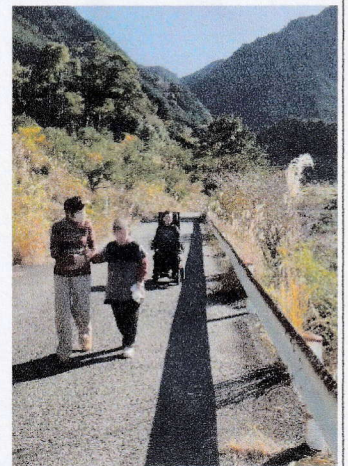
一人は、電動車いすを利用して、毎日自力で移動するのは難しいしんごさんで、車で送り迎えをして通所しております。“びっくりする取り組み”はこの時です。同じところに通っているもう一人のりかさんは、別に職員が付き添って歩いて通うのです。

和家は、人手が少なく大変な中でも、こんな活動を“無駄”とは思わないでやっていけるグループホームです。散歩したいという思いを、支援する側からの意味だけでとらえて、歩行マシンを導入すれば、手も取られないし、雨の日だって筋力維持の運動ができるというような“専門性”だけに簡単に呑込まれないで、暮らしを大事にする実践です。

長年障がい者の生活支援の場で仕事をしている私には、そんな実践が宝物のように思われます。きっと、りかさんは、出会う人たちと話をしたり、季節を感じたりして、心地よく疲れる散歩をしたいのだと思うのです。

もちろん、現実には、きれいごとだけでは済まないのは承知しています。帰りには、限られた職員数と折り合いをつけて、2人一緒に車で帰るのです。

それでも、しんごさんが、「今日は車いすで帰りたい」という良い天気の日には、二人一緒に歩いて帰るときもあるそうです。帰ったすぐでもりかさんは、両手を振って散歩に行こうとアピールするときもあります。そして職員さんは、それに工夫して応えようとしているのが見えます。



あすなる福祉財団助成 長時間停電時も安心・・・防災用品と防災倉庫を設置

公益財団法人あすなる福祉財団様（東京都台東区）からの助成で、防災倉庫、電源バッテリー等、常備しました。重度・重複の障がいを持つ人たちが生活する和家では、電動車椅子の電源や夜間照明、毛布や非常時の食料・飲料水の確保が開設計画からの課題でした。今回の助成によって、長時間停電などの場合でも、安心して生活の継続ができるようになりました。

被災時には、一般の避難所では困難な在宅障がい者の皆さんにも和家を開放します。ありがとうございました。

【常備した備品】

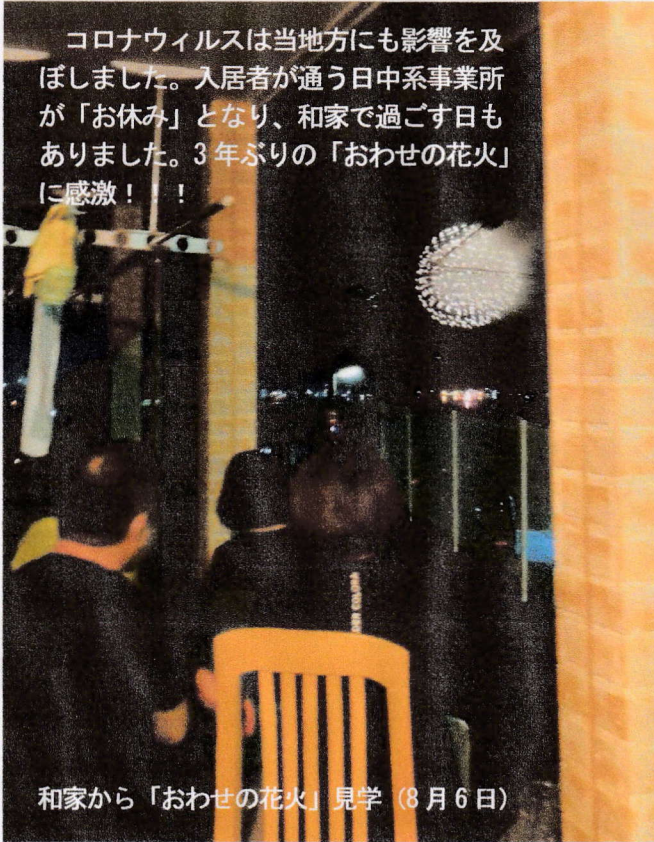
- ・防災倉庫（写真 左）
- ・災害時応急簡易テント（写真 右）
- ・発電機 2基
- ・高圧洗浄ポンプ
- ・LED仮設照明器具 10基



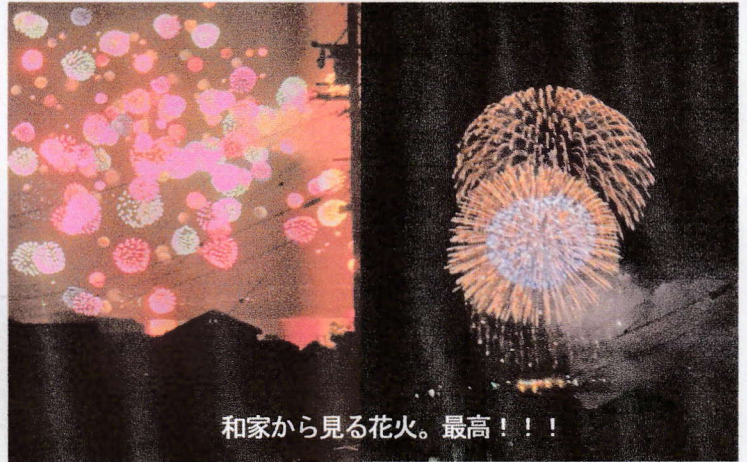
暮らし&社会参加

和家の暮らしと社会参加の様子をお知らせします

コロナウィルスは当地方にも影響を及ぼしました。入居者が通う日中系事業所が「お休み」となり、和家で過ごす日もありました。3年ぶりの「おわせの花火」に感激！！



和家から「おわせの花火」見学（8月6日）



和家から見る花火。最高！！

和家に勤めて

世話人 伊藤一志

今年の4月から和家で働いています。人の生活を支える、大切な仕事で、責任も感じますが、誇らしくもあります。

和家での仕事は抱えている障がいも考え方も違う方々を、その時々によって柔軟な対応で支援していく必要があります、とても大変な仕事だと感じます。しかし、より良い支援ができるようになれば、利用者の方々の生活をより楽しく、充実したものにするため、大変な分、とてもやりがいのある仕事であるとも思います。

自分の支援はまだ拙いですが、利用者の方々の生活がより良いものになるように、自分自身が経験を積み、成長しながら、より良い支援を目指して精一杯頑張らせていただきます。人生経験、社会経験が少なく、いろいろと至らない点も多々あると思いますが、よろしくをお願いします。



和家でも花火大会！！



ありがとうございます

当法人の活動やグループホームの運営に多くの方々からご協力がありました。大切に活用させていただきます。

2022年3月1日～2022年8月31日

【賛助会員】個人会員 25名 (合計) 92,000円(92口)

【寄付金】(株)五味建設 様、訪問看護ステーションたいせつ 様、匿名希望 1名
(合計) 80,000円

【物品寄付】善光寺 様(米・他)

多くの方々から新鮮な野菜・鮮魚なども沢山いただきました。

From まぐのりあ

★和家では、職員を募集しています。業務は食事の支度や介助など日常生活上の支援です。利用者の意思を汲み取り、同じ目線での関係を作ろうとする気持ちがあれば大丈夫です。勤務時間、給与等は当法人の就業規則、給与規則などによります。短時間の勤務も可能です。詳細はお問い合わせください。

編集後記

❖コロナが終わらぬうちに、ウクライナへの侵略。暗いニュースが続きますが、夜明けが来ることを信じよう。「戦争は障害をたちどころに重くする。戦争は障害者の尊厳を軽々と奪い去る。戦争は障害者の明日を真っ黒に塗りたくる。」(ふじいかつのみ氏 NPO 法人日本障害者協議会代表)の詩から)。弱者ほど、生きられないのが戦争だ。(Y)